



卒業予定者の合格・内定状況をお知らせします。

昨年度はコロナ禍で就職の日程が1ヶ月遅れてでしたが、今年度は例年の日程に戻りました。コロナは終息してはいませんが、先の見通しがつくようになってきたのか、企業の採用状況は良くなっているようです。本校でも就職内定状況は良好です。2回目の就職試験に向かっている人も応募の準備や試験の結果待ちをしている人が多い状態です。

進学ではほとんどの人が大学の総合型選抜や専門学校の入試を終え、合格を手にしてしています。大学入学共通テスト試験や大学一般入試受験者については、これからが本番です。推薦入試や総合型選抜で合格が決まった人も、入学後の学習についていくためにはこの時期の学力向上・定着は重要です。体調に気をつけて、万全の体制で臨みましょう。

### ■ 令和4年3月卒業予定者の進路希望・合格状況

11月18日現在

	I 部	II 部	III 部	合計	合格・内定
4年制大学	5	0	1	6 < 6 >	3 ( 1 )
短期大学	0	0	0	0 < 0 >	0 ( 0 )
専門学校	8	4	2	14 < 15 >	11 ( 11 )
就職	7	11	4	22 < 25 >	14 ( 12 )
その他	1	2	2	5 < 0 >	
合計	21	17	8	47 < 46 >	28 ( 24 )

※( )内は昨年度11月19日現在実績(昨年度の就職日程は1ヶ月遅れ)。< >は昨年度希望者数。  
※大学入学共通テスト出願3名(昨年4名)

### ■ 「やまがたのスペシャリストに聞くトップセミナー」が行われました。

11月18日(木)の8校時に、田宮印刷(株)代表取締役社長 阿部 和人氏をお招きしトップセミナーが行われました。「霞城学園で身につけるべき大切な事」という演題で、今様々なところで活躍しているAI(人工知能)に勝るのは「人間力」であり、それを身に付けるためにという視点で霞城8Cを取り上げられました。中でも「自」が入っている「自己肯定力」「自己管理力」「自立力」をピックアップしてお話いただきました。ご自身の経験・体験、さらには自らの失敗談まで使って、分かりやすく具体的にお話いただきました。決して大きい声ではないのに、なぜかすーっと心に響いてくる声が印象的でした。お話を聞いて、物事の捉え方、心の持ち方を考えさせられました。今自分ができること、やるべきことを着実にやっていくことで道が開けてくるのだと思います。阿部氏もおっしゃっていたように、是非、まず一つでよいので今日から実践してほしいと思います。



社会人として生きていくためにも必要な霞城8Cが、本校生徒にとってより分かりやすくなり、「生き方」を考える貴重な時間となりました。大変為になる時間をいただき、阿部社長に深く感謝いたします。

## ■後期中間考査の対策・計画はできていますか？

12月1日(水)～3日(金)後期の中間考査がありますが、みなさん学習計画はできていますか？あと2週間もありません。

1年間の成績は年度末の最後の定期テストで決まるわけではありません。年4回の定期考査の素点だけでなく、日頃の授業態度や出席状況、提出物状況などの平常点を含めて総合的に決まるものです。最後だけ頑張っても無理なのです。前期の成績が振るわなかった人、昨年度までの成績が振るわなかった人は、特に力を入れて、計画的にテスト勉強に取り組みましょう。

就職や進学の際に必要な調査書にはすべての年次の成績が記載され、出願先に提出されます。判定材料としてよく用いられる評定平均は最終年次だけでなく、すべての年次の全科目の評定の平均です。自分の条件を高め、選択肢を広げるためにも、先のことを考えて、今できることをしっかりやりましょう。



### 卒業年次生全員対象 SST④が開催されます

11/26(金) 15:00～16:00 視聴覚室「卒業後のことを考える」桑名 暢 先生  
就職希望者だけでなく進学希望者も参加対象です。卒業年次生にとって最後のSSTです。

### 就職内定・大学短大専門学校等合格者へ

当たり前のことですが、「卒業」することが大前提です。内定や合格はゴールではありません。この後、気がゆるんで授業を欠課したり、定期テストも成績が落ちたりすれば、せっかく内定した企業や合格した学校を裏切ることになってしまいます。また、卒業できなくなってしまうということは絶対に許されません。

特にしっかり認識してほしいのは、推薦入試・総合型入試での大学合格者です。大学に合格できても相当の学力がなければ入学した後に単位が修得できない、進級できないということになります。一般的に、大学入学時点での学力を比べると、推薦・総合型での大学合格者は一般入試合格者よりも低いとされており、学習について行けず、脱落してしまう学生が少なからずいます。そうならないためにも、これまで以上に学習をするくらいの気持ちを持っていただきたいと思います。

「有終の美」を飾るといいますが、終わりをきっちり締めることは必ずよい未来につながります。